

第2章 いじめの未然防止

4 「ホームルーム活動」を通して（高等学校編）

高等学校におけるホームルーム活動の内容は、学習指導要領においては中学校の学級活動の内容に加え、①自主的な活動、②役割の自覚と自己責任、③コミュニケーション能力の育成が求められている。この3点にいじめ防止の視点を加え、各自が役割をもって具体的な活動を進め、必要な場面における合意形成など他者と関わることを通して、ホームルームが生徒一人一人の「心の居場所」となることが大切である。

1 学校行事を生かした自主的活動の実践例…文化祭のクラス企画を例に

ホームルーム活動における学校行事に関する自主的活動は、集団での大きな意思決定を通して人間関係を強化するという観点から、いじめの起こりにくい集団形成に大切な場面である。しかし、民主的な手続きや丁寧な合意形成を欠くことも多く、そのことがきっかけでトラブルやいじめの発展につながりやすく、教師の適切な指導・援助が必要となる。ここでは文化祭の企画決定までの話し合いを例に、いじめ防止のための人間関係形成と教師の援助の方法を示す。

(1) 指導目標

- ア 文化祭のクラス企画を通して集団の一体感が育まれるよう、自主的活動を尊重しながら、教師が適切な導きや支援を行う。
- イ 相互の受容と共感によるよりよい人間関係を醸成する。
- ウ 様々な問題や課題に自分達で取り組み、解決する態度を育成することで、トラブルに強い集団をつくる。



(2) 指導計画（放課後およびロングホームルーム等4時間分）

1 時間目（本時）	クラス企画の検討	企画内容等の決定
2 時間目	クラス企画の準備①	係分担の決定・打合せ
3 時間目	クラス企画の準備②	準備作業・進捗状況確認
4 時間目	クラス企画の準備③	準備作業・最終確認

(3) 本時の流れ

導入部分で、上記指導目標ア～ウを踏まえて、「他者を尊重する」「課題を自分達で解決する」などといった「クラス企画を通してどのような学級を目指すのか」という目標を提示し、生徒全員の合意形成を図り、イメージを共有する。その後のグループ協議や企画決定の話し合いの場面でも、常に「目指す学級の姿」に自分達の活動が合致しているか確認しながら、相互の受容と共感による人間関係を深め、社会性が育つ活動に導く。

【展開（50分）】

	活動内容	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・学級委員（責任者）から本時の内容の説明。 ・教師から本時の意義・目的の説明。そこで「クラス企画を通して学級が目指す姿」を提示。【5分】 例：文化祭のクラス企画の話し合いや活動を通して「互いの意見に耳を傾けられる生徒」「全員が協力・協働して目的を達成する学級」を目指したいと考えています。皆 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主的・自治的活動の部分は尊重する。 ・「目指す姿」について生徒の合意を形成し、十分に理解できたと判断したら、自分達の活動と目指す姿が合致しているか常に振り返るよう指示する。

	さんは賛成してくれますか？あるいは他によい意見はありますか？	【指導・観察】
展開①	<ul style="list-style-type: none"> グループ協議① グループ内で各人の企画アイデアの発表（1人1分程度→グループ内で1つの案に絞る。 【15分】	<ul style="list-style-type: none"> グループリーダーはファシリテーターとしての留意点を踏まえているか。また、自由に発表できる雰囲気はできているか。 他者の発表をしっかりと聞いたり適切にまとめたりすることで、互いを尊重する態度が高まっているか。【観察】
展開②	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの協議内容を発表。その際に、企画案が「クラス企画を通して学級が目指す姿」にどのように結びついているかも発表に含める。（1分×8グループ） 【10分】	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループの発表をしっかりと聞いているか。【観察】 ※各グループの発表ごとに拍手などを入れると、互いを尊重する雰囲気や自分達の意見が認められたという満足感につながる。
展開③	<ul style="list-style-type: none"> グループ協議② 他のグループの発表を聞いた上、どの企画がよかったか、また実現可能なのか協議する。 【5分】	<ul style="list-style-type: none"> グループリーダーは全員から意見を述べてもらうよう促し、全員で企画に取り組む姿勢を確認する。 クラス企画の案が「目指す学級の姿」の目標を達成するものとして適切かどうか観察し、必要な場合は助言する。【助言・観察】
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> クラス企画の決定（学級委員もしくは責任者） 次の時間（係分担の決定等）の説明 教師が本時の評価と「学級が目指す姿」の再確認を行い、全員で協働することを指示する。 【15分】	<ul style="list-style-type: none"> 多数決や各アイデアを融合させた案の提示など、公正かつ丁寧に企画が決定されているか。【観察・生徒の振り返り】 教師は各リーダーの進行や全員が意見を述べたことを評価し、今後の活動に向けた生徒の意欲を高める。【助言】

2 指導のポイントと本時以降の留意点

本項では、学級での話し合いを通して、よりよい人間関係と団結する態度を育成する事例を示した。生徒が自分達の活動について様々な場面で振り返ることは、トラブルが生じた際に、それを乗り越え、一歩ステップアップした集団形成へと寄与することになり、いじめ防止につながっていく。その際に「学級の目指す姿」が示されていることで、立ち返るべき原点が明確化される。

なお、この後作業が進むと、人間関係のあつれきや仕事の遂行に伴うトラブルが発生することが予想されるが、これについては、第2章回「学校行事を通して」、第5章回「ネットいじめ」を参考にしてほしい。

- 集団への参加と相互理解、個々の考えを尊重した合意形成を通して、いじめやトラブルを集団の力で乗り越える学級が形成される。
- 学級の目指す姿をあらかじめ共有し合うことで、トラブルが生じた際にその原点に立ち返って考えることができる。
- 高等学校においては、各学級単位のホームルーム活動の時間を確保しづらい面もあるが、ホームルーム活動の重要性を学校全体の課題と捉え、時間の確保に努める。